

令和6年度但馬・丹波かぞくねっと研修会宣言（R6/11/2）

私^{わたくし}たち、知的障害者施設家族会^{ちてきしょうがいしゃしせつかぞくかい}は、知的障害児者^{ちてきしょうがいじしゃ}のより幸せな日常生活を目指して、日々心を一つに活動してまいります。そして、いつの日か、優しさに^{とうらい ききゅう}つまれた、全ての人々が幸せに生きていける世の中の到来を希求します。

知的障害児者^{ちてきしょうがいじしゃ}の存在を不幸なこととし、世の中の^{いとな}営みからひた隠ししてきた悲しい時代が長く続きました。今、その存在が多様性^{たようせい}の一つとして尊重^{そんちょう}されるべきであると考え、多くの先人^{せんじん}の尊^{とうと}い取り組みの先に、世の中に受け入れられる^{どじょう}土壌ができつつあります。

知的障害児者^{ちてきしょうがいじしゃ}は、かわいそうな人達^{ひとたち}でありましょうか。いわゆる^{けんじょうしゃ}健常者の当たり前^{きせき}の日常こそ奇跡なのです。人が生きていくために必要な心や身体^{ふくぎつ はたら}の複雑な働きが、どれ一つ^{かぶそく}過不足なく^{れんけい}連携していけることこそありえない幸せなのです。そのことを思う時、私^{わたくし}たちは皆、共に生きる仲間^{なかま}であることに気づきます。

しかしながら、知的障害児者^{ちてきしょうがいじしゃ}が、自力^{じりき}で日常生活を^{いとな}営むことは現実的ではありません。当たり前^{きせき}の日常のためには、足りないところを^{ほかん}補完する^{いとな}営みがかかせません。今、地域で支え合い、共生^{きょうせい}するという考え方が^{にんち}広く認知されつつあります。私たちは、それに加えて、知的障害者施設^{ちてきしょうがいしゃしせつ}を一つの地域社会として、直接的に支える^{しくみ}仕組みの維持、^{かくじゅう}拡充が大切と考えます。

私^{わたくし}たちは、知的障害児者^{ちてきしょうがいじしゃ}の幸せな日常生活実現の^{しくみ}仕組みを作るための前向き^{じみち}で地道なそして、たゆまぬ活動^{せんげん}を続けていくことを、ここに宣言します。